

Q.

投資判断をゆがめるバイアスにはどのようなものがありますか？

A.

アンカリング・バイアスや現在志向バイアスなど、自分でも気づきにくいバイアスが投資判断に影響を与えます。

投資判断には、自分でも気づきにくいバイアス（先入観や偏見）が大きく影響します。例えば、自分の判断に自信を持ちすぎてしまう「自信過剰バイアス」や、変化を避けて今の状態を保ちたがる「現状維持バイアス」、周囲の意見に流される「群集心理バイアス」、以下で説明する「アンカリング・バイアス」や「現在志向バイアス」などがあります。これらのバイアスは冷静な判断を妨げ、投資の失敗につながることもあります。

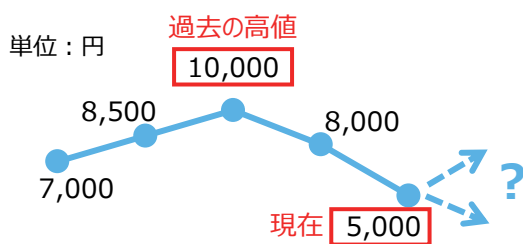
まずは、バイアスがどのようなものかを理解し、それが自身の意思決定や投資判断に影響を与えている可能性を認識することが重要です。

投資判断に影響を与える様々なバイアス

アンカリング・バイアス

人が意思決定を行う際に、最初に提示された数字や価格（アンカー（錨））を無意識のうちに基準にしてしまい、本質的な価値判断ができなくなる傾向のことをいいます。

＜アンカリング・バイアスの例＞



過去の高値から50%も下落しているぞ！割安に違いない！

過去から見て半値まで値を下げたとしても、その水準がその時の企業価値から判断して割安な水準であるとは限りません。本来の適正価値は事業環境や利益水準によって変わるため、「過去の株価」に基づいた投資判断は失敗するケースがあります。

現在志向バイアス

将来に得られる“大きな”利益と、今すぐに得られる“小さな”利益を天秤にかけて、後者を選択してしまう傾向のことをいいます。

＜現在志向バイアスの例＞

設問：あなたはどちらを選びますか？

A
今すぐに
1万円もらえる

B
1ヵ月後に
1万1千円もらえる



1ヵ月先のBよりも今すぐにもらえるAにしようかな

この場合、1ヵ月待てば10%（1,000円）増加するにも関わらず、目先のAを選択する人が多い傾向にあります。

株式投資においても、今後の成長性や株価が割安か割高かを考慮すれば、売却しないという選択肢があったとしても、目先の株価が上がっているからと売却を選択してしまうことがあります。

（注）上記は一般的な特徴であり、すべてを網羅しているわけではありません。

（出所）各種資料を基に三井住友DSアセットマネジメント作成

※この資料の最終ページの「重要な注意事項」を必ずご確認ください。



【重要な注意事項】

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。